

楽しみな今後の土佐校

振興会会長 国見直樹

師走の街は、華やかに飾られ、イルミネーションが美しく輝いています。もう、一年を締めくくる時季となりました。

今年も、諸先生方、会員の皆様方、大変お世話になりました。本部役員を代表し、心よりお礼を申し上げます。

皆様のご協力により、子どもたちのために、振興会としての企画に取り組むことができることは、有難いことです。

第六号でお知らせしました、学校側と振興会本部とで構成される「連絡協議会」の開催もこうした企画の一つ。

去る十二月十日には、校長先生、両教頭先生、各部の諸先生方の出席をえて、第三回「連絡協議会」が開催され、校長先生の方からは、学校の状況などにつき、詳しく、説明をいただきました。

その概要は、第七頁に掲載してありますが、特に、「平成一六年度入試」に向けた説明会の実施状況と、もうそこまで日程が煮詰まりつつある学校改築のことに強い関心を持って、拝聴しました。

今年行われた土佐校の入試説明会は、新たに編成された広報の先生方の努力もあって、大変盛況だったようです。来年度の入試が楽しみになってきました。

二学期、学校では東大総長佐々木毅先生の特別講演会と、土佐OBのご尽力により文化行事として落語講演会が開かれました。この

とき、講師の先生方から土佐校生の受講態度が高い評価を得たとのこと。講師は聞いてくれる相手有ればこそ気持ちよく語れるわけですので、土佐校生の質の高さが見えたようで嬉しく思いました。

我々保護者は、子供が卒業するまで学校と共に歩まねばなりません。現在の土佐校の取組みに全面的に賛同を感じる今日この頃です。それでは、来年度も、相変わらずよろしくお願い申し上げます。

学校近況「報告」

学校長 池上武雄

今年も早師走を迎え、一年の経過がことの外速く感ぜられる今日

頂きました。

早期着手の利点として、①建築後三〇年以上を経過する現校舎の耐震性に問題がある(一月中旬には高知工科大学調査班による報告をいただく予定)、②費用確保面で有利(建築の具体化で募金が集めやすい、建築費、金利も現在が有利)、③生徒募集でも有利(少子化が進む中でレベルの高い生徒を確保できる)等の観点から、出来るだけ早期着工すべきとの結論になったものです。

学校としては貴重なご提言を實行に移すべく手順を踏んで進めて参るつもりです。校内の先生方には、それぞれの現場で意見を出してもらい、先進学校も視察願って土佐中高の将来を充分展望した上で学校の在り方をコンセプトとしてまとめようをお願いしておるところです。

いずれ振興会の皆様にもご意見をお伺いしたいと考えております

この頃ですが、振興会の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと心からお慶び申し上げます。

平素は学校運営につきまして格別のご支援・ご協力を賜っておりますことを有り難く厚く御礼申し上げます。

一、支部総会

さて、六月二十一日の香南支部総会を皮切りに本年も一六箇所の支部総会に参加させていただきました。

残念ながら、日程の関係で土佐市・須崎と伊野・佐川・越知・日高の二つの支部合同総会を欠席いたしました。誠に申し訳なく、来年度は必ず参加させて頂くよう努めるつもりですので、ご了承願います。

保護者の皆様との懇談で、沢山のご意見、ご注文やお励ましを頂

ので宜しくお願い致します。

寒さに向かう折柄、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、学校近況報告とさせて頂きます。

平成一五年度

TSL(教員研修)報告

教頭 浜田俊充

振興会の皆様には、平素からの学校に対するご支援をいただき感謝しております。特にTSLの研修には多額の基金をいただき、昨年度は延べ一五名の教員が各種研修に参加できました。今後の生徒指導等に活かせるよう努力していきたいと思っております。

ここでは、本年度に入ってから実施されたもの、現在実施中のものを報告させていただきます。報告書には各教科のくわしい内容に

戴しました。あらかじめ広報担当に頂いたご質問につきましては、出来るだけ文書でお答えさせて頂きました。充分ご満足頂ける回答になったかどうか分かりませんが、これからもそうようにお答え申し上げます。と考えると、お答え申し上げます。遠慮なくご質問をお願い致します。懇談を通して保護者の皆様方の本校教育に寄せる思いに接し、必ずお応えせねばとの思いを一層強くいたしております。

二、特別講演会

九月五日、東京大学総長、佐々木毅先生に高校生対象の特別講演をしていただきました。「若さと勉強—人材の育成とは何かを考える」と題して、人生の貴重なお論しを頂きました上に、来年度東大入学者には、入学式の後で保護者共々、総長室での面談激励を約束されるなど格別のご配慮も頂戴しました。

三、入試説明会

本校での入試説明会を十月二十六日高校、十一月二十三日中学と開催致しました。その他、地区別には、佐川、安芸、幡多と開催し、各地区の保護者有志の方にお手伝いをいただきました。大変お世話様になりましたことを改めて御礼申し上げます。

特に中学説明会では、児童、保護者、塾関係で九五〇人という大勢の方々に参加いただき、資料や椅子の追加など嬉しい悲鳴をあげました。プロジェクトによるディスプレイでの説明など、参加された多くの方々から分かりやすく大変良かったとの好評をいただきました。

四、校舎の改築

校舎につきましては、かねて創立百周年を展望しての改築を計画していたところですが、先般同窓会本部役員会から「百周年に合わせて早く着手すべき」との提言を

わたるものもありますが、紙面の関係上省略させていただきます。

一、英語勉強会 幹事・仁尾

六月より週一回、参加者は新聞の短いコラムを英訳して持ち寄り、順番に自分の翻訳を音読し、外国人講師にその場で添削してもらい、疑問点などを質問するものです。英語の教員が、他の英語の教員の前で音読する機会はめったに無いことで、適度の緊張感も伴い、いい経験になります。普段忘れがちな生徒の身になって考えるところも思い出させてくれます。

二、駿台「大学入試研究会」三浦

七月二十五日・駿台大阪南校  
①二〇〇四年度難関国立大学入試動向について・駿台予備校 吉田氏  
二〇〇三年度入試は「安全志向」が言われていた割に難関大は一層の「難化」であった。  
全国模試データ等をもとに

した二〇〇四年度入試動向の説明では、「五教科七科目制」の影響はほとんど見られず、来年度も同様のハイレベル入試になる。

②国立大はどのように変わっていくか・元大阪大事務局長 糟谷氏

国立大の独立法人化は、そもそもは公務員定数の削減という政治的目標から始まった。独法化のもたらすものとしては政府の宣伝する効果はほとんど期待できず、むしろ学術・教育レベルの維持・向上という観点からは様々な問題が予想される。

三、学校・塾への訪問テクニクと志願につなぐ学校説明会・小村／松村・七月二十五日・ISA学校経営コンサルティンク 部主催・東京

本年度から校務分掌に新設された広報担当者が参加。生徒募集活動のノウハウの講習。

さつそく各学校・塾への訪問、各地や本校での学校説明会等に活用できた。

四、英語教育ワークショップ・小林／高橋・七月二六日～二七日・筑波大付属駒場中・高等学校

全国六名の先生のワークショップ。実践は非常に参考になったが、それ以上に先生方の持っている理念・哲学・情熱・愛が自分を振り返る意味で、今回の最大の収穫であった。

五、新英語教育研究会全国大会 竹内一浩・八月一日～四日・つくば市

Onard College アメリカ  
八月二日から二週間の間、アメリカのカリフォルニア州オクスナード市に滞在し、一般家庭にホームステイしながら公立の二年制カレッジで語学研修をし

六、夏期短期英語研修プログラム 上砂・八月二日～一七日・Onard College アメリカ

八月二日から二週間の間、アメリカのカリフォルニア州オクスナード市に滞在し、一般家庭にホームステイしながら公立の二年制カレッジで語学研修をし

てきました。(中略)

今回の旅行で最大の収穫と感じたのは実際にアメリカのライフスタイルに触れることができ、現地の方と友達になれたことです。私はこの年齢で初めてアメリカ大陸の土を踏みましたが、やはり現地に行かなければアメリカの真の姿はわからないということだと思います。異文化を知ることが絶対できません。今回の研修で特に印象に残った点は二点あります。一つ目は、語学学校では毎日、文化や歴史に関する宿題が出て、それをホストファミリーの方とディスカッションするのですが、ある時、アメリカを表す言葉を四つ聞いてきなさいという宿題が出ました。私のホストファミリーのおじいさんに聞いたところ、「Democracy」「Freedom」「Opportunity」「Superpower」の四つが即座に出てきました。(さすがに退役軍

人だけあって、四つめのSuperpowerには少し笑ってしまいました。アメリカ人は誰でも自分の国を表す言葉がすぐに見えるんだと感心させられました。はたして、日本では私を含めて日本を表す言葉を直ぐに四つ言える人がどれだけいるでしょうか。

二つ目はアメリカの大学制度の仕組みについて理解できたことです。アメリカの大学生は本当によく勉強します、同時に教授も猛烈に研究するということです。そして学生と教授のお互いがお互いを厳しく評価する仕組みになっていて、少しでも評価が悪いと学生は退学に、教授は失業するという厳しい現実があるということです。どこかの国のレジャーランドといわれている大学とは大違いです。SCLAのキャンパスにも出かけました。多くの学生が屋外でも一生懸命に勉強する姿を見ました。

命に勉強する姿を見ました。

なお、公立大の授業料は日本と同じ程度ですが、私立の有名大(たとえばスタンフォード大)の場合、ふつうの学部で年間五〇〇万円程度と日本のそれに比べてきわめて高額になっているのに驚きました。

英語の方は、元々私の英語のレベルが低いので大きなことは言えませんが、聞き取りの能力は少しですが確実にあがります。この点、土佐高校でも生徒の皆さんに海外留学の機会を増やすべきだと思いました。英語の力は絶対あがるし、異文化が体験できる。海外留学は思春期に絶対体験させたい事柄の一つと思うようになりました。

七、駿台「夏期教育研究セミナー」

参加者 (国語科) 大崎・(数学科) 有瀬／掛水／藤岡・(英語科) 鎌田／松田・(理科) 岡峯・八月十日～二十二日・東京大阪で各

種講座

八、筑波大学付属駒場中・高校「教育研究会」島内／川崎・十一月二十八日・数学科公開授業

☆ 十二月以降の予定(二件)  
九、駿台「教育研究セミナー」

参加予定者 (国語科) 大崎・(数学科) 藤岡／島内／掛水／有瀬 川崎・(英語科) 松田・十二月三日～二十六日・東京・大阪で各種講座

一〇、徳島大学大学院科目等履修

生 西・養護教育学特論 学校看護学特論 養護教育実践学 特論・十一月十五日～一月七日の間の集中講義

☆ 以上のように多くの教員が研修の機会を与えられ感謝しています。来年度は今まで参加していない教員にも呼びかけ、より広く有意義な研修になるよう努力したいと思っています。なお、報告は一部抜粋引用したものです。(文責浜田)

生徒募集活動に関する報告

広報担当 島内 麻千子

十月・十一月を中心に、広報部では、学校説明会および中学校訪問を二つの大きな柱として生徒募集活動を行ってまいりました。まず、学校説明会については、本校で二回(中・高各一回ずつ)と学外の三会場で行いました。

十一月二十三日の中学校説明会では、予想をはるかに超える総数九五〇名余りの参加をいただき、本校に対する関心の高さをうれしく感じると共に、本校在学生の保護者の皆様の日頃からのご協力の結果によるものだ改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。当日は準備していた資料や座席が足りなくなるなど、参加いただいた方には大変ご迷惑をおかけしましたが、本年度は、より本校を理解していただきたいという思い

のもと、中学校の生徒会長に学校生活の様子を紹介して貰ったり、受付や案内係を中三生数名に手伝って貰うなどの試みが大変好評で、好意的なお言葉をたくさんいただきました。

他会場も含めて、参加者の方からの説明会に関するアンケート結果は概ね良好でした。しかし、広報部としても初めてのことがばかりでまだまだ不十分な点も多く、参加者すべての方に満足していただけたという訳ではありません。今年度の反省点を十分に活かし、来年度はより充実したものにしていかなければと思います。

また、安芸・幡多地区の説明会の運営においては、振興会の保護者の皆様に多大なご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

次に、中学校訪問については、県内の公立中学校に訪問の有無を問い合わせた後、要請のあった学

校八校についてのみ訪問させていただきました。(訪問校 馬路中・奈半利中・芸西中・土佐町中・香長中・香南中・青柳中・朝ヶ丘中・その他 潮江中・横浜中は資料のみ届ける) 学校によっては進路担当の先生にお会いするだけでなく、本校を受験希望の生徒さんや保護者の方ともお話をさせていただくことができ、有意義なものであったと考えております。また、実際に出向いてみないとわからないような地域の情報などもあり、今後の生徒募集活動の参考にもなったように思います。

その他、中学校側主催の高校説明会にも呼んでいただき、他校とともに参加しました。城北中では生徒四〇名・保護者四名、一宮中では生徒一〇名・保護者一名が本校を希望して説明を聞いてくれました。

学校説明会・学校訪問等の広報活動を行っていくなかで、学外向

けのアピールも勿論、大切なことではありますが、やはり最も重要なことは「今現在、本校に在籍する生徒達にとって本校が今以上に素晴らしい学びの場となるよう、我々が努力を続けていくこと」それが本場の意味での広報活動につながるのでは、との思いを再認識しました。(以下、資料)

- ①高校説明会 一〇・二六(日) 本校会議室にて一〇時〜十一時半 参加者数 一〇六名
- ②中学説明会 一一・二三(日) 本校体育館にて一〇時〜一二時 参加者数 九五〇名
- ③佐川地区説明会一〇・二五(土) 土佐塾佐川教室にて 一八時〜一九時半 参加者数 一六名
- ④安芸地区説明会 一一・二(日) 安芸市民会館にて 一〇時〜一二時 参加者数 二三名
- ⑤幡多地区説明会 一一・二(日) 中村中央公民館にて 一三時半〜一五時 参加者数 一九名

**土佐高野球部の復活を目指して**  
土佐高野球部監督  
高多倫正

今春四月に母校の教員として、そして高校野球部の監督として帰高してから半年余りが経ちました。この間の野球部の成績は甲子園の懸かった夏、秋の大会とも二回戦での敗退となりました。敗れた相手はそれぞれ岡豊高校と宿毛高校の県立校でした。高知高校、高知商業、明德義塾といった本来のライバル校との対戦を前にしての敗戦は私自身にとって大きな衝撃でした。

平成五年の選抜大会以来一〇年間、甲子園から「土佐高校」が遠ざかっている緊急事態(非常事態)宣言の下に召集を受けた身としては、この厳然たる事実を正面から受け止め、打開して行くために何を為すべきかを問われました。

ヒントは何とも身近な「全力疾走」にありました。「練習の時から」と「試合の時だけ」との違いです。肉体面での資質では恒常的に劣る土佐高校がなぜ何度も甲子園を沸かせることが出来たのか。各生徒が練習の時から骨身を惜しまず、常に全力を出し切る「物事に徹底して取り組む姿勢」を「全力疾走」を持っていくことです。そのことが、どんな難敵との試合でも実力を十分に発揮することが出来る強い集団を作り上げていたからです。

過去に倣い現在の野球部に与えられた試練をチャンスに変えるべく、生徒とともに秋季・冬季の練習ではスローイングやバットスウィングなどの基礎的な能力をアップさせるための徹底した練習を行っています。そして、秋季大会以降のオープン戦では七勝一敗とチームは徐々に力を付け始めてきました。試練の時ではありませんが、来夏、来秋に向けて一条の光明が

見えてつづあります。

物事に徹底して取り組む姿勢は「厳しい試練」を迎えた時にこそ、その真価が発揮されます。そして社会に出てからも真のリーダーシップを発揮できる人間としての基礎にもなります。土佐高校での野球部生活を通して「試練をチャンス」に変えて立派に成長して行く生徒を、厳しく(時にはやさしく)見守って行きたいと思っております。その成果が結実する日は遠くないと念じながら。

**ガーナ高校生**  
ホームステイを経験して  
宮本 精子  
(高二N 宮本 久・保護者)

今から五十年前も前のことです。小学校卒業の時、外交官になりましたと夢を語った浅井大使は、中学

入学の頃から猛烈に英語の勉強を始め、高校時代のESによるアメリカ留学を実現させ、その時以来外国に目を向けて活躍して来ました。そして、ガーナ大使発令の直前に行った馬路村で、「永い間ずっとアフリカで仕事をしたいと思っていた」と、しみじみと話してくれました。その時、私はその意味を十分掴めず、何でアフリカ? という思いが先にたち、何も言えませんでした。

三五回生の同級生が、彼女をバックアップする形で支援会を足させた時、私もその輪の中に入り、彼らの活発な活動を感じしながら来て来ました。今回、ガーナの高校生のホームステイの話が出た時、せめて私のできる協力はこれだけだと手を挙げました。そして、子供が親しくしていただいているご家庭に相談した際に、二つ返事で快諾して下さい、とても嬉しく思いました。

我が家に滞在した Paul は、最後まで楽しそうに行動を共にしてくれました。伊野紙の博物館で紙漉きをし、ボーリングにも行き、夜は夜で二夜とも、同級生達が七人集まって、それは賑やかに過ごしておりました。神経系イチャクをすると言って、まずジャンケンから身振り手振りで教えて、その時に同席していた私の友達が、子供達のやさしさに感心して居りました。一生懸命考えて May I ask you a question? What is your hobby? と話して分かって貰えた時の嬉しそうな顔。言葉の壁など何の心配もないと実感できたひとときでした。

最後の夜、遅くに寄せ書きをしていました。真中に皆で一緒に写真を貼って、その周囲にひらがな、片仮名、漢字、ローマ字で名前を書き、その下に We are Friends!! と大書してありました。この色紙を、東京に発つ朝見送りに行った

バスの中の Paul にやつと渡すことができて、何よりのお土産と  
思いました。We are friends. 浅井大使が繰り返し述べていたように、これからのアフリカを担うセントピーターズ高校生と土佐高校生の真の交流がこの一言につきて、  
いるように思いました。そして、  
何でアフリカ? という私の思いも、この度のホームステイという初めての経験で目からうろこの感  
がしました。永い間かけて彼女は、  
このようにして世界に目を向けて来たのだと。

帰国後、頻繁にメールのやりとりが続いています。クリスマスと新年の休暇に再度高知を訪れたいので招待状を送って欲しいという内容です。彼のファミリーと日本のホストファミリーの交流をこれからもずっと続けて行きたいと両親も願っていると聞けば、これ以上の喜びはありません。又、このことをきっかけに、これから子供

達同士の新しい世界が開かれて行くのでしよう。本当に嬉しいことですし、親子共々貴重な体験をすることができました。ふつと、Paul に会いにガーナへ行ってみたいと思いはじめたこのごろです。

土佐に、ガーナの高校生が

高一S 中井彩記子

「ガーナ人が土佐に来る」このニュースはたくさんの方が色んな思いを抱いただろう。最近海外交流を手軽にすることができるようになってきたので多くの人が様々な国の人と接触する機会が増えてきた。しかし、私たちが出来る外国人の多くはアメリカ、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパが主で、アフリカ大陸の人、ガーナ人に直接会えて、こんなステキなチャンスをもたらえるなんてラッ

キーと思った。ガーナって言われて思いつくことは「アフリカの方?!」「チョコレート!」…。  
初対面でのガーナ高校生の印象は、毎日炎天下の中頑張っている野球部やサッカー部の皆様の日焼けなんて目じゃないことと、髪型が皆さんそろっての坊主頭で、背はスラっと高いこと。それに、目が合ったらニコッと笑ってくれる笑顔にはやられちゃいました。  
私の家にステイした留学生はともとてもシャイなお方で、疲れもあつてだろうがあまりしゃべらなかつたし、にこやかではいてくれるんだけど、何が嬉しくて何がイヤなのかわからなかつたので、お互いにあまりよくコミュニケーションがとれなくて、ガーナ事情や日本とガーナの違いなどをほとんど聞けなくて残念だった。でも、『よさこい』でスゴイものを見た! 彼らは曲さえかかっていればたとえその曲が今初めて聞いた物

であつても踊ってしまうのだ! 言葉ではなく五感で雰囲気を感じ取って踊っているように思う。恥ずかしいなんて気を持つ前に彼らは踊った方が気持ちいいこと、オモシロイことを知っているみたいだった。彼らがどんどん誘ってきてくれるので、私も恥ずかしいと思つてしないより行動した方がおもしろいことを、彼らから学ぶことが出来た。恥ずかしいなんて言つてたら何も始まらない。  
ガーナの食べ物も食べさせてもらった。それはピーナツバターのカレースープのようなもので、まずくはないけど私には全然美味しく感じられなかつた。  
同じトキを生きているのに「場所」の違いで、こんなにも文化、歴史、言葉、価値観が違つたり、知らない物があるのはとてもオモシロイなと思つた。ガーナの人々は日本に対してどんな印象をもつたのかを知りたいなとも思う。

第三回連絡協議会報告

振興会副会長 山本 志雄

(十二月十日・土佐校会議室にて)  
連絡協議会は校長先生の近況報告から始まりました。十八各支部総会中十六支部総会に出席され、保護者からの質問に対して、その場で解答すると共にホームページ上でも公開している。次に東京大学総長の佐々木先生の特別講演が生徒たちに好評であり、次回は土佐高の同窓生でもある尾池京都大学学長に講演を依頼する考えを示しました。運動会は櫓を始め、なかなか盛況で楽しかったが、孫の運動会を見にこられた高齢者の方々に椅子がなく、見ずらかったなど来場者への配慮が来年以降の問題であります。中学入試説明会では例年を百名も越す方々が集まつて頂き、先生の写真入りパンフ

レットなどが好評であり、広報室の意気込みが伝わる入試説明会でした。地区の入試説明会では各地区の保護者に大変お世話になり、感謝の言葉を述べられておりました。また、高知市を含め、県内数校の中学校に他の私立高校とともに学校説明会に行くと共に、土佐高単独でも数校に学校説明会を行った。文化行事としては、生落語の会を開き、中学生など初めての生徒が多く、「非常におもしろかった。」「テレビのバラエティとは違う面白さだった」と表現する子もいました。三人の落語家さんからは、「落ちなどの反応がよく、優秀な生徒さんたちですね」と評価をいただきました。

校舎改築問題については、来年の二学期までに将来をみすえた先進授業の見学や教室の構成などの案を現場の先生方に作成していただき、設計事務所や建築会社の公募など順次計画していますとのこ

とです。現校舎の耐震性については高知工科大学の先生に依頼し、来年二月には報告をいただける予定です。  
保護者からは、TST について質問し、申請する先生の数、教科について本年度は広がりを見せ始め、ユニークな申請も散見され、このまま予算内で先生の教育意欲の向上に寄与していきたいと考えています。私学助成金は土佐校では予算の約1/3を占めており、行政改革の中減額の可能性など、国、県、高知市の教育予算方針を注意深く見ていく必要があるとの意見で一致しました。

先生の育成システムについては、新人研修や、十年研修も行っていますが、土佐校独自のきめ細かい先生の研修についても考えていくとのことでした。  
今回は各支部総会での説明が充分なされたようで、あまり問題はなかつたようですが、校舎の改築、

私立学校助成金の問題など土佐高の将来を左右する問題が含まれており、保護者のなお一層の御協力をお願いします。

【編集後記】

この第七号が編集者として最後の仕事になりました。「入学案内号」や「教職員プロフィール」を含め十一回に亘り、この作業を続けることができたのは、偏に、先生方・本部役員・印刷屋さんの暖かい力添えがあつたからです。深くお礼を申し上げます。時間に追われる毎日の中で、協力をいただいた方々には、感謝の気持ちで一杯です。たまに街角で保護者の方に「振興会だより」を見ています」と声をかけて頂くことが、何よりの励みでした。

平成一六年度は、新しい担当者による「振興会だより」が始まりますのでご期待下さい。

佐々木毅総長の特別講演会より



ガーナ高校生と(2)



ガーナ高校生と(1)



ガーナ高校生と(3)

